

《宇都宮上町教会》

宇都宮上町教会信徒 國吉 常喜與

十字架塔を支える4本の鉄骨のうち3本裂断、教会堂内は瓦礫の山、外側はブルーシートで仮雨除と満身創痕。3社5人の建築士が、「一日も早く新築を」と異口同音でした。

復旧工事は3回に分けて行い、3月ようやく完了。費用は教会と幼稚園で約600万円、会堂共済からの見舞金と自己資金で支払えました。教区教団の多くの先生方からの指導と励ましに深く感謝いたします。

これからですが、まずは教団の「10億円献金への取組みです。

「2年間、各年100万円以上」の目標を役員会で確認して、一年目は約150万円を献金できました。二年目も同額かそれ以上を目標に祈りつつ取組みます。

今後の教会と幼稚園は、地域の福音の泉として、また有事の際の防災拠点となりうる教会新築のために祈りと具体的な準備に着手していきます。ご加祷告支援をお願いいたします。



《学校法人みふみ学院 みふみ幼稚園》

みふみ幼稚園園長 國吉 真理子

その時、園庭に避難した子供達と先生方は、教会十字架塔が大きく揺れるのを見ていました。もうひと揺れしたら折れると思ったそうです。揺れが収まったあと、全員の無事を確認して感謝のお祈りを捧げました。その時にはまだ、東北の海と福島で大変な事態が起きているとは知りませんでした。しかし早くも翌日には、数名の方が遠方へ転出されました。それは確かな情報を得ての行動であり、その後も次々と在園児や入園予定児の家族が転出するなど、栃木県の安全安心のイメージは崩れ去りました。栃木県内の有力企業はリスク分散のため海外生産にシフトし、宇都宮の勢いは失われました。

これからの幼稚園は「その芯に何を持つか」が決定的に問われることとなります。その時に、安心・安全な園舎は最低条件でしょう。幸い、教区・教団には現に幼児教育に携わり、経験豊かな先生方が多くおられます。信頼して前進できることは大いなる感謝です。

島村教会の報告

島村教会 佐藤 謙吉

礼拝堂の壁のひび、保育園本館の壁や天井の変形、別館のサッシのしまりの悪さなど、振動による外壁のペンキの剥がれもひどく、補修の必要に迫れていましたが、国の登録文化財に指定されているために、自主補修はできず、県、文化庁との協議が必要であったため、なかなか着工できないでいました。

この4月末日に文化庁の内定報が県にあったとの連絡を、伊勢崎市文化財保護課から受けて、5月の連休明けから補修工事がようやく始まりました。

この工事に関しては、国、県、市からの補助はなく、教会の予算、保育園の予算などから支出する予定で、準備を進めています。総工事費は約400万円（土台などの取替が新たに必要となったためです。）です。どうぞ、お祈りに覚えてください。

「竜ヶ崎教会 一歩ずつ歩んでいます」

竜ヶ崎教会 飯塚 拓也

揺れが長く続いたことによって、建物や園庭の弱い部分に被害が出ました。特に、関係施設の竜ヶ崎幼稚園と竜ヶ崎保育園に大きな建物被害が出、天井が痛み、壁が傾き、床が不陸し、デッキが破損しました。また、園庭は地盤沈下と地割れ、コンクリートの擁壁に強い圧力がかかり破損しました。昨年の夏休みより工事を開始しました。ホールと保育室全体に足場を組んで天井と壁を修理し、園庭には鉄板を打ち込んで土砂の流失を防ぎ、重機を入れて土を取り除きました。



冬休みに職員室の床を張り替え、春休みにホールの床を張り替え、ようやく工事が終了しました。大工事となっしまい、資金的な問題も抱えながらの取り組みですが、一歩ずつ復興に取り組んでいます。牧師館は、屋根の破損、外壁・内壁の亀裂、扉のゆがみが生じました。こちらは業者の都合がつかず、まだこれからの状況です。幸い、会堂は無事でした。八角形の作りが地震のエネルギーを吸収したようです。

また、福島第1原発の事故にも悩んでいます。退園者・入園辞退者がありました。園庭の除染を行いました。近く2回目の除染を行う予定です。

四條町教会のこれから

四條町教会 平山 正道

東日本大震災の被害は会堂（今年で築100年）、付属館（フライ記念館、築7年）、幼稚園舎（築26年の鉄骨造りと築49年の木造）すべてに及びました。改修工事は昨年秋、必要資金がすべて満たされて行なわれました。長年加入してきた日本基督教団会堂共済組合からの見舞金が、大きな助けとなりました。幼稚園舎は被害が軽微だったため応急措置を済ませて保育活動には支障のないようになっていますが、近い将来に大規模な改修か建て替えを行う計画です。

会堂は古いので、数年ごとに手を入れて維持管理をしてきました。震災前の2年に限っても床の修繕、漆喰壁の塗り直し、木製の窓枠の取り換えなど、合計625万円かけて行ったところでした。もし、こうした改修をしていなければ、震災による被害はもっと大きかったかもしれません。歴史的建造物である会堂を大切に維持しながら、日常の伝道牧会活動を誠実に担い教会形成をしていくことが、わたしたちの教会の変わらない務めです。

原市教会の近況報告

原市教会 村田 元

このたびの東日本大震災で1952年に建設しました礼拝堂が被災しましたところ、皆さまが祈りに覚えてくださり、また、ご支援をも賜りましてありがとうございました。

礼拝堂は鉄筋コンクリート建築でありましたが、経年による劣化部分の損傷と、30年近く前に増築した部分の破損がかなりありました。このまま使用することは危険ということでありましたので、皆で協議の結果、経年の補修部分を含めた全面改修工事に踏み切ることといたしました。このために昨年10月に臨時総会を開催し、これからの経費は積立金や教会内募金で手当てすることにしております。

去る4月20日より工事に入り、6月29日に工事を完了する予定で現在工事中であります。工

事の進捗に連れて次々と追加工事が出て来まして、予算的には苦しい状況です。幸い教会が設立しました学校法人赤心幼稚園が併設されておりますので、礼拝、教会学校、諸集会は幼稚園を使わせていただいております。幼稚園は 2010 年建築でありまして、同じ敷地内ではありますが、被災をまぬがれました。感謝してご報告いたします。

桐生東部教会報告

桐生東部教会 小野 團三

桐生東部教会では、2011 年 3 月 11 日東日本大震災での被災以降、定期教会総会、その後、教会懇談会を 3 回開催、これからのこと、資金の手当て等を相談しました。何とか今年の 2 月 14 日に教会の第 I 期改修工事を始め、4 月 30 日に完了、引渡しが行われました。牧師館の配水管の損傷に伴う 3 階と 4 階の改修工事、教会の本体の鉄筋 4 階建物と増築部分の鉄骨 3 階建てのつな



ぎ目部分および各階の壁等の修復作業は、予想よりも大きな改修工事となりました。第 II 期工事は、駐車場の陥没部分の全面的な修復作業が 6 月 4 日より 21 日までの予定で行われます。教団と関東教区のご理解とご支援、群馬地区、諸教会の仲間の皆さんより温かい励ましをいただき教会員一同、復興への希望と勇気を与えられております。3 年後の創立 100 周年に向けて教会の仲間は新しい気持ちで新年度の歩みを始めております。これまでのお祈りとお支えをありがとうございます。心よりの感謝をもって皆様に御礼を申し上げます。

益子教会の今

益子教会（代務者） 平山 正道

東日本大震災によって益子教会の会堂（築 17 年）も大きな被害を受けましたが、関係者のお祈りと関東教区の温かいご支援のもとで、改修工事を行うことができました（総工費 437 万円）。復興感謝礼拝を行ったのは 12 月 11 日、その翌週には、特別な 1 年を振り返りながら、感謝の内にクリスマス礼拝を捧げました。会堂は元通りに復興し、整えられました。問題はその先です。8 名の教会員のほとんどが高齢化し、礼拝への出席が困難です。平均 3~4 名の礼拝を大切に守りながら、西上信義先生（協力牧師・水戸自由ヶ丘教会）を中心に、訪問伝道に力を入れています。

またご承知のように、5 月 6 日に発生した竜巻で、益子町は地域によって再び大きな被害を受けました。竜巻が通ったのは教会から西に直線距離で約 2 キロのところですが、教会関係者や会堂に被害はありませんでしたが、益子教会のことに合わせて、竜巻で被災した人々の上に、主の助けとお支えをお祈りいただければ幸いです。



（写真は韓国基督教長老会京畿中部老会の方々をお迎えして）

日本キリスト教団日立教会 被害と復興状況

日立教会 島田 進

主の御名を賛美します。

東日本大震災の発生から1年2カ月が経ちますが、未だ多数の不明者がおられ、また生活の場を失われ苦渋と不便の生活を強いられておられる方々の大勢おられることを思いつつ、主のお支えと励ましをお祈りします。また、私たちの教会の被災を覚えて、今日まで多くのお祈りと数々のご支援を寄せて励ましていただきましたことを、心より嬉しく感謝申し上げます。

さて、震災当日、日立市は震度6強の強く長い揺れと海岸部は津波に襲われました。教会関係者には、人的被害、建物全壊という被害はありませんでしたが、皆、家財・備品等の損壊がありました。ここに、当教会建物・信徒宅等の被害とその復興状況を報告させていただきます。

(1)教会建物、会堂(礼拝堂)・集会室(別館)・牧師館に、内外壁の亀裂や破損、天井板の歪み、トイレドアの歪み、蛍光灯・非常灯の器具の抜け落ち、その他で200万円程の修理費が見込まれていますが、建物簡易診断調査では土台等にひび割れが見られない、軽傷とのことでした。自分たちで修理するというので、もっと被害の大きい教会・伝道所に支援費を回していただきたいと思えます。今、壮年による「アカシヤ」グループが誕生し、修理等に大活躍しておられます。

(2)教会員の住居には、全壊こそありませんでしたが、宅地の陥没で建物の歪み、宅地の防護壁の崩れ、屋根瓦の崩落等で、半壊、一部損壊という診断を受けた方々が9世帯(17名)あります。その他に塀などの倒壊があり、数10万円～500万円を遥かに超える被災状況です。他所に新築1世帯(3名)・賃貸集合住宅1世帯(3名)、他は現在地に我慢して滞留という現況です。また、地震災害を機に転出された会員3名、地震災害とは言えませんが2名が召天(4月と6月)され、6月以降、体調を崩す方々も見られます。

(3)その他、乳幼児、子ども、青年がいますので、放射線量が非常に気になります。昨年6月中の牧師館玄関の測量器で常時0.218～0.160マイクロシーベルト/時を表示(日立の通常時は0.040マイクロシーベルト/時)。雨樋から雨水が落ちる場所で2.204マイクロシーベルト/時がありました。現在は0.175～0.145マイクロシーベルト/時。できれば、もっと精密な線量計が欲しいのですが、今後も注視していきます。

子どもや若者の集まりでお茶や会食はペットボトルの飲料水を使用しています。原発事故のほんとうの終息がいつかは不明ですが、浄水器の設置も視野に入れなければならないのか?課題です。

水海道教会の現状と課題

水海道教会 加藤 久幸

東日本大震災とその後の余震により、水海道教会は多数の亀裂とその他損傷がありました。被災前から、中期的な課題として、教会は会堂のバリアフリー化を検討していましたので、この工事を前倒しする方向で話し合いを始めました。紆余曲折があり、1年を経た2012年教会総会で「バリアフリー化改修工事と復旧工事を、教会員の合意を得て、速やかに実施する」と決めました。具体的には、新たに設置された会堂整備委員会が進めていくことになります。

水海道教会学園(二葉幼稚園、育ちサポートセンター)では、塀の修理、園庭の除染作業、保育室の空調設備設置などを既に行いました。

教会・学園は、被害状況の再調査も含め、今年度内に工事に着手できるように取り組む予定です。皆さまのご支援とお祈りに感謝します。私たちも、他の被災教会の歩みを覚えつつ、私たちの「整備・復興」を進めたいと願っています。